

## ドイツにおける就学前の子どもを抱えた移民家庭に対する教育支援 母親のエンパワメントに注目して

伊藤亜希子（九州大学大学院博士後期課程）

### 1. 研究の目的

本研究は、多文化社会ドイツにおける近年の移民に対する教育支援の中でも、特に移民の母親をエンパワメントする効果をもたらした居場所づくりの活動に注目し、移民の母親に及ぼした影響とかれらを取り巻くドイツ人側への波及効果を具体的に明らかにすることを目的とする。事例としては、ドイツ国内でも積極的な移民の統合政策を打ち出し、多くの成果を上げてきたノルトライン・ヴェストファーレン州（以下、NRW 州）の一都市であるビーレフェルト市のある保育所の取り組みを取り上げ、そこでの参与観察や保育士からの聞き取り、さらに行政側からこの取り組みを推進する異文化間事務所<sup>(1)</sup>の責任者へのインタビューなど、当事者の具体的な声から上記の点を明らかにする。その上で、その具体的事例を「異文化間的視点」(佐藤、2003、29 頁)から考察を加えることにする。

### 2. 就学前教育における移民支援導入の背景

近年、ドイツにおいては、移民の学業達成度や就業率が低いという現実を踏まえ、移民を幼いうちからドイツ社会に統合することを目指した早期ドイツ語教育の必要性が盛んに議論されている。その際、効果的な教育支援のためには、家庭と教育機関が連携を図ること、特に親を支援することの重要性なども指摘されている。

こうした指摘に応じて、NRW 州では、移民の母語・母文化を重視し、言語獲得のための家庭における母親の役割に注目したプログラムが開発された。これは、育児場面での母親の教育力を高めることで結果として母親のエンパワメントにもつながるものである。

本研究で取り上げるビーレフェルト市においても、同様のプログラムの実施が検討されたが、人的・物的環境整備に時間を要することから、実際には当市の異文化間事務所と協力したイニシアチブ・グループがプログラムのコンセプトや諸都市の地域移民支援機関（略称、RAA<sup>(2)</sup>）の事例を参考にしながら、市独自の方向性を作り上げ、地域の実情に

---

(1) 異文化間事務所 (Interkulturelles Büro) とは、外国人や移民に関わる滞在権や国籍取得、社会福祉、教育、就労等に関する情報提供、アドバイジングを行っており、さらには当市の移民の統合に関する構想を作成するなど、当市の移民の統合全般に関わりを持つものである。

(2) RAA とは、Regionale Arbeitsstellen zur Förderung von Kindern und Jugendlichen aus Zuwandererfamilien (移民家庭出身の子どもや青年の支援のための地域活動事務所) の略称である。現在、州内に 27 の RAA が設置されており、諸都市の状況に応じて、重点領域が異なる。

合う形で取り組むことになった。

### 3. 研究の方法

報告者は、2005年7月以降に行った収集資料に基づく文献研究(2001年、2002年、2004年報告書)、参与観察(2005年7月)の分析を踏まえ、2006年12月に現地調査を実施した。本報告では、主として2006年12月にトルコ系移民の集住する地区に位置するS保育所での参与観察、及び当保育所の責任者であるドイツ人保育士H氏と行政側で移民の母親支援に取り組む異文化間事務所の責任者G氏へのインタビューから得たデータを用いる。

### 4. 事例: 移民の母親の居場所

#### <事例 ママ・コース>

このコースでは、子どもの発達や育児に関する情報や母親たちの人間関係構築の機会がもたらされる。母親たちはこのコースを「自分たちが集まって、自由に話をできる場所」として捉えており、こうした母親たちの参加を促すために、保育士のH氏や異文化間事務所の責任者G氏は母親たちが信頼でき、自由に意見や疑問を述べるよう雰囲気作りを重視している。

#### <事例 親のカフェ>

このカフェはS保育所内のオープンな場所に常設されており、母親が子どもを連れてきたときにコーヒーを飲みながら自由に過ごすことのできる空間になっている。母親同士は「自分たちが自由にしておく、母語で会話ができて、情報交換ができる」、いわば社交場のように捉えている。しかし、H氏はそれ以上に、母親が保育所内の空間に存在することで、保育所の日常を垣間見、そこから保育所活動に参加していくきっかけになったと話している。

#### <事例 親の朝食会>

S保育所では月に1回、親と保育士と一緒に朝食を取る朝食会が開かれている。ムスリムであるトルコ系の母親とドイツ人の母親が共に参加することから、食卓に並べられる食材については親と保育士の間で議論がなされた。これはドイツ人の母親の異文化理解を促進し、文化的背景の差異に考慮するならば、共に保育所や地域の活動に参加することができるということをドイツ人の母親に経験的に理解させることになった。

### 5. 考察

上記の事例では、移民の母親に様々な情報提供をし、母親たちの居場所を作り出すことで、移民の母親が保育士や同じ移民の母親、ドイツ人の母親といった他者との関係を構築し、保育所の活動に参加するようになっていった。これが結果として、他者との関係構築や参加を可能にする母親のエンパワーメントに至った。このエンパワーメントを成功裏に導いた重要な要素は、保育士、移民の母親、ドイツ人の母親の三者の間での相互作用から

生じた異文化理解、そしてそこから築かれた三者の間の信頼関係であると考えられる。

<参考文献>

- 佐藤郡衛 (2003) 『国際化と教育 異文化間教育学の視点から』放送大学教育振興会  
Beirat des Projekts. (2001). *Hinführung von Vorschulkindern türkischer Herkunft zur Zweisprachigkeit*. Eine Dokumentation. Bielefeld.
- Beirat des Projekts. (2002). *Hinführung von Vorschulkindern türkischer Herkunft zur Zweisprachigkeit*. Fortsetzung der Dokumentation vom November 2001. Bielefeld.
- Projektbeirat. (2004). *Das SPRACHSchatzPROJEKT. Ein Sprachförderprojekt für Migrantenkinder im Vorschulalter der "Bielefelder Bürgerstiftung"*. 3. Dokumentation vorgelegt vom Projektbeirat. Bielefeld.